




審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1194 号	氏名	中村 篤雄
審査担当者	主査	張 渠 浩	
	副主査	西 昭 徳	
	副主査	祥 水 圭	
主論文題目： Development of a teicoplanin loading regimen that rapidly achieves target serum concentrations in critically ill patients with severe infections (重症感染症患者に対する早期の目標血中濃度到達を目的としたテイコプラニン負荷投与法の検討)			

審査結果の要旨 (意見)

久留米大学病院救命救急センターに入院し、MRSA 感染症を発症した患者を対象に通常よりも高用量の Teicoplanin の初期投与を行い、腎機能障害の程度を 4 グループに分けて比較検討し、Teicoplanin の体内動態、有効性および安全性について解析した研究である。重症患者が多く搬送されてくる医療施設においては本研究にある様な高用量の Teicoplanin の初期投与を行うことで、重症の MRSA 感染症の治療成績を向上させる可能性を示唆するもので、臨床的な意義は大きく、学位論文として高く評価できる。



論文要旨

テイコプラニンは、投与初期に高用量の負荷投与を必要とする抗菌薬である。今回我々は、重症メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*, 以下 MRSA) 感染症に対して、投与開始 48 時間以内に血中濃度 (Teicoplanin serum concentration, 以下 TEICc) $\geq 15\text{mg/L}$ の達成を目的とし、腎障害の程度によらず一定の高用量投与での有用性と安全性の検討を行った。

本研究は、2010 年 2 月から 2013 年 2 月の期間に前向き研究として MRSA 感染症 106 例に対して行った。高用量投与は 12mg/kg を 12 時間毎に 4 回投与した。維持量は TDM (Therapeutic drug monitoring) の結果から 24 時間毎に測定した TEICc に応じて投与した。得られた結果をもとに腎機能及び腎代替療法別に 4 群に分け、Ccr (Creatinine clearance) >50 以上を Group 1 (G1), Ccr ≤ 50 を Group 2 (G2), 持続的腎代替療法群を Group 3 (G3), 間欠的腎代替療法群を Group 4 (G4) とした。TEICc 測定は、24, 48, 72, 144 時間後の投与直前に行った。

目標 TEICc は、全ての群で達成し、G1, G2, G3 で高い細菌学的有効率と有用性が得られた。

腎障害によらず一定量の高用量投与で、投与開始 48 時間以内に目標 TEICc を達成し、十分な有用性が得られた。